アジア地域ビジネス論A		講義	教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目	科目ナンバリング	23200201	

1. 授業のねらい・概要

発展を遂げてきたアジアにおけるビジネスを特徴づけるものをクローズアップし、今後の可能性について取り上げる。これによってアジアにおけるビジネスモデルの特異点の抽出を目指す。また、アジアのこれまでの発展はもとより、今後の可能性と基本的な課題についても取り上げる。

2. 授業の進め方

各項目について、具体的かつ理論的にアプローチする。そのため、中心的な産業におけるビジネスの具体的な事例をできるだけ多く取り上げていく。また受講生によるレポート作成等によって、より関心のあるビジネスについての考察を深めることを目指す。説明については、配布資料の講読、板書を重視する。また、授業中の積極的な意見発表も歓迎する。

3. 授業計画

1. イントロダクション（授業の進め方と授業の概説）	9. 「中所得国の罅」と産業構造
2. アジアの発展とは①（東アジアの奇跡）	10. アジア経済における資金フローと通貨問題
3. アジアの発展とは②（中国の台頭）	11. アジアにおける金融ビジネスと先進国経済
4. アジアの労働力を背景としたビジネス展開	12. アジアの金融危機（先進国の金融政策を踏まえて）
5. 域内貿易とグローバル・バリューチェーン	13. アジア地域のビジネスと農業問題・食糧問題
6. アジアにおけるグローバルビジネスの新展開	14. アジアビジネスの今後の展望と課題
7. 南アジアにおける新興産業ビジネス	15. アジア地域のビジネスの基本的課題の整理と総括
8. アジアのイノベーション	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

宿題によって、予習を促す。また、より深い考察のためにレポート作成も課題とする。こうしたことから、予習は1～2時間、復習としてのレポートを仕上げるには、日々1時間以上の学修は必要であろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期中に行う課題は、出来得る限り次の授業で解説を行う。期末試験等の質問については適宜対応する。

6. 授業における学修の到達目標

アジア地域のビジネスを通して、経済発展に必要なビジネスモデルを実践的学修する。これによって経済学の視点を有するビジネスマンとしての基礎力を自らのものにすることを到達目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業における積極的な発言・課題提出、レポート（30%）、期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に限定しない。参考文献は、遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太[編] (2018)『現代アジア経済論 「アジアの世紀」を学ぶ』(有斐閣ブックス, 2700円+税)

9. 受講上の留意事項

2年次後期の「アジア地域ビジネス論B」と合わせて履修することが望まし。また、1年次の「グローバル化と国際社会A・B」及び1年次後期の「日本とアジアの経済」を履修しておくことが望ましい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。